

## 18 ともに働く仲間だから（外国人）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

10 深刻な人手不足を抱える日本では、最近、コンビニや建設現場、農場などさまざまな職場で働く外国人の姿を見かけるようになりました。しかし一方で、一部には不当な長時間労働や低賃金、差別的な扱いなど、人権侵害の事例も後を絶ちません。

15 今日、介護業界で時代に先駆けて外国人を受け入れたきた、朝倉市にある介護老人保健施設「ラ・パス」の取り組みをご紹介します。

20 フィリピンとの経済連携協定を通じて、10年前から毎年2人ずつ、フィリピン人を受け入れてきた「ラ・パス」では、国家資格の介護福祉士を目指す彼女たちに、就労開始当初から日本人と同じ賃金を保証しています。また、日本語学習や試験対策のために、外部講師を招いて勉強時間も設けています。

生活面では、近くに社宅を用意し、自転車を提供しています。さらに、町内の資源物回収などの行事にも日本人職員と

25

一緒に参加して、地域の方に名前と顔を知ってもらうことも大切に行っているそうです。

30

一方で、日本人職員の中には、外国人と身近に触れ合ったことのない人も多く、最初はフィリピンという国を知る勉強会から始めました。

35

さらに、毎年6〜7名をフィリピンに4泊5日で派遣し、現地の大学を視察したり、通訳なしで市場で買い物したりして、自分が外国人の立場になった時の不安を体験してもらう機会をつくっています。異国で働く大変さを少しでも理解すること、外国人の受け入れ環境の改善に活かそうとしています。

40

日本人と外国人が共生できる職場環境を築くためには、日本人とは異なる価値観や文化があることを理解することが大切です。ただ人手不足を補うための労働者という考えではなく、ともに働く仲間として互いに認め合い、尊重しあえる関係を築いていくことが大切なのです。